

つたえるけん 佐世保市



白浜海水浴場

佐世保で最も大きな海水浴場で、夏は多くの人でにぎわいます。文字どおり白い砂が広がる美しいビーチで、映画「坂道のアポロン」のロケも行われました。



丸出山堡壘観測所跡

明治時代、軍港として開かれた佐世保港を守るために造られた要塞で、日本遺産「鎮守府」の構成文化財の一つです。現在は九十九島を見渡せる展望所になっています。

佐世保屈指の観光スポット、九十九島を望む俵ヶ浦半島では素晴らしい自然や景観を生かしたまちづくりが進められています

今月のつたえるひと 山口昭正さん

佐世保市俵ヶ浦町出身。大学卒業後、企業勤務を経て、30歳で農業経営者となる。2018年から「一般社団法人 チーム俵」の理事を務め、半島の景観や地域の魅力を生かしたまちづくりを行っている。



魅力あふれる俵ヶ浦半島に
多くの人を呼び込みたい

佐世保市の南西部に位置する俵ヶ浦半島は、九十九島と佐世保港を望む風光明媚な地域です。私はこの豊かな自然の中での暮らしが好きで、先祖から受け継いだ土地に住み、農業と漁業をなりわいとして生活しています。俵ヶ浦半島は赤土で農作物がよく育ち、海では大漁も狙える恵まれた環境です。

しかし、全国の農山漁村と同様に、人口減少による過疎化という厳しい現実があります。そこで、多くの方に俵ヶ浦半島に来てもらい、その良さを知ってもらうための活動を5年ほど前から地域の仲間たちと始めました。

まず最初に「俵ヶ浦半島開発協議会」が主体となり景観を生かしたトレイル（ウォーキング）コースの整備を行いました。そのとき協力していた九州大学の樋口准教授の「俵ヶ浦半島には人々を感動させる風景が残っている」という言葉が原動力となりました。半島内にある4つの町それぞれの風景にスポットを当て、道しるべを作るなどして、歩きやすい環境を整えました。その後、一般社団法人 チーム俵を設立。中心メンバーは5人で、イベントなどに協力してくれるメンバーは50人ほどいます。また、展海峰近くでは、食を通して半島



佐世保中央 IC 佐世保駅 西九州自動車道

九十九島パールシーリゾート

石岳展望台園地

九十九島水族館海きらら

鯨瀬ターミナル

佐世保港

船越展望所

九十九島動植物園森きらら

西海国立公園 九十九島

展海峰

下船越町

半島キッチン ツッテホットテ

庵浦町

白浜海水浴場

俵ヶ浦町

花の森公園

野崎町

丸出山堡壘観測所跡



高後崎船番所跡

高後崎灯台



半島キッチン ツッテホットテ
地元の漁師さんによる一本釣りの鮮魚(釣って)と、畑で育った山の幸(掘って)が店名の由来。魚介や野菜、果物を使った軽食や農産品・加工品を販売・提供しています。



展海峰
九十九島を180度のパノラマで眺望できる展望台。展望台下の園地には、春(3月下旬~4月上旬)は菜の花、秋(10月中旬~下旬)はコスモスが咲き誇り、大勢の人でにぎわいます。



バードコール
景観維持のために間伐した木材を使って製作。木片とネジをこすり合わせると小鳥の鳴き声に似た音が出ます。

「半島キッチン ツッテホットテ」で買えるお土産



俵コロッケ
ジャガイモにおからやレンコンを加えた素朴な味の手作りコロッケ。地元の果物で作った酵素ドリンクも好評です。

表紙のはなし
『九十九島海賊遊覧船 みらい』海賊の帽子をモチーフにした外観が特徴です。「未来に向かって海を走る」という思いが込められています。(P.8に関連記事)

展海峰菜の花ウォーク



15万本の菜の花が咲き誇る展海峰をメイン会場に、野崎町周辺を歩く全長7.5kmのコース。佐世保湾や九十九島の絶景を眺めながら歩きます。
と き: 3月29日(日)8時30分受付開始
9時30分開会式 ※雨天中止(小雨決行)
ところ: 「半島キッチンツッテホットテ」 佐世保市下船越町403
参加費: 300円
問合せ: 半島キッチン ツッテホットテ ☎0956-28-3241

九十九島かき食うカキ祭り・冬の陣



小粒ながらも濃厚でぷりぷりの九十九島かきをセルフパーベキューで楽しめます。焼き台400台(1600席)が並び、地元の水産加工品などを販売する店もあります。
と き: 2月の土・日・祝日・振替休日、3月1日(日) 10時~16時
ところ: 九十九島パールシーリゾート 佐世保市鹿子前町1008
問合せ: 九十九島パールシーリゾート ☎0956-28-4187

の魅力を伝えるレストラン「半島キッチンツッテホットテ」を運営し、その収益をまちづくりの活動に充てています。地元的女性グループによる手作り料理が好評で、地元で採れた農水産物も販売しています。

さらに現在、誰もが栽培しやすく、かつ付加価値が高いとされるハーブ「和ハッカ」を特産品として売り出す計画や、間伐材を用いた手作り製品の開発企画が開始されています。どちらも軌道に乗れば、半島のさらなる魅力アップにつながるかと期待しています。

今後10年間の目標は、今よりも交流人口を増やし、定住者の増加につなげることです。「チーム俵」のキャッチフレーズは「ヒトがオモテ」。俵という漢字は「人」と「表」でできています。住民の笑顔と個性が輝き続ける元気な俵ヶ浦半島を目指してこれからも頑張っていきます。